

## 「人の心動かすスポーツの力/コロナ禍の傷跡は深い」



令和5年3月吉日  
「久仁京介かこむ会」  
筆頭副会長 白根幹夫

野球の世界一を決める第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)日本代表「侍ジャパン」は決勝で前回王者の米国を3対2で下し14年ぶり3度目の優勝を果たした。

大会を通じて投打の「2刀流」で活躍した大谷翔平選手(エンゼルス)が最優秀選手(MVP)に選ばれました。

「世界のトップに立つため、今日一日だけはメジャーリーガーへの憧れを捨てて戦いましょう！」と大谷選手の掛け声と共に始まった決勝戦。言葉通り世界一のチームになりました。日本中が感動と喜びに包まれた瞬間でした。「スポーツの力がこれほどまでに人の心を動かすものか」と、改めて感じるひと時でもありました。一人一人が出せる力をフルに発揮され、チームメイトを信頼し、次につなぐという、まさに「全員野球」で勝ち得た勝利だと思います。

まとめ役を担う選手、ムードメーカー的存在の選手もいたり、おののおが力となりチームを支えたことも勝利の一因だと思います。選手達の技術のすごさに感心させられると同時に、チームワークの素晴らしさに、感動させられっぱなしでした。

世の中には何千の野球チームがある。そこには何万人の野球少年がいる。それらがみんな大谷選手のような夢を持ち動いている。

野球が生まれた地でサムライが見せてくれた上質な「新たな景色」に酔おうとしよう。 日本代表の皆さんお疲れ様でした。